

NO. 22 「釜石市教育長協議会からの視察」

令和4年10月24日

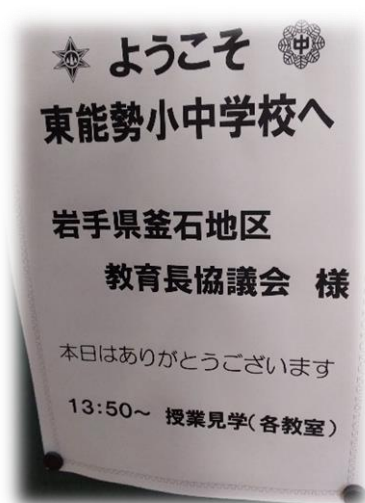
10月17日（月）岩手県釜石市、大槌町の教育長さんたちが令和4年4月に開校した施設分離型・小中一貫教育校「東能勢小中学校」を視察され、本町の保幼小中一貫教育の取り組みについて説明を行い意見交換しました。

どちらの町も平成23年（2011年）3月11日に起きた「東日本大震災」の大津波により甚大な被害を受けられました。私が翌年の7月から、大槌町の学校再建に10年近く関わらせていただいたこともあり、今回の視察となりました。

午後0時50分～役場・大会議室で「東能勢小中学校」の開校後の状況を教頭先生からプレゼンで説明いたしました。



午後1時30分～東能勢小中学校（前期学部）の授業参観
椅子の下には雑巾がきちんと掛けられています（全学年統一）



午後2時

班での話し合いもきちんとできていました（2年）
タブレットを使った授業（3年）



午後2時40分 中学校校舎に移動、5年～9年の授業参観（全学年＝道徳）
どの学年も落ち着いて授業に臨んでいました。
教卓がまだあるのには驚いておられました（7年道徳）



午後3時20分 校長先生から学校図書館の取り組みについて説明です



午後4時30分 役場大会議室でこれまでの取り組みの経過をプレゼンで説明
「豊能の風」をご覧いただいている、経過等よくご存じでした



午後5時10分 塩川町長を表敬訪問・懇談



<主な意見交換の内容>

- ・分離型で校舎が離れているが、管理職、先生方の交流は？
- 管理職の意見・情報交換は週1回の会議をもっている
- 前期・中後期全体での職員会議はまだ持っていない
- 前期校舎、中後期校舎で職員会議を開催している
- 意見) 大槌学園は一体型小中一貫校、月1回全体で職員会議を開催、校長は1人

・全校での取り組みは？

→10月8日（土）には、ふたば園も入れて「第1回・合同運動会」を開催した異学年との交流種目も取り入れて盛り上がった。

・5，6年を中学校校舎に移したのは？

→これまで生徒指導等で課題のあった学年も、中学校校舎にあがると先輩の姿を見て、また一緒に活動して、集中して力を発揮できるようになった。

→令和8年度に1～9年と一緒に活動することになるが、できる所から小中一貫教育を進めている。特に4年，7年，9年がリーダーシップを発揮できている。

→5～9年生の児童生徒は、すぐに新たな環境に慣れて昼休み時間等に一緒に仲良くドッチボールをしている。

→登校は、通学路等検討部会で議論、1～6年はこれまで通り一緒に登校している

保護者の方もこれまでより多くの方が見守ってくださっている。有難いこと。

→委員会活動は、5，6年が小学校校舎に移動、4～6年で活動している。

→最初は教職員も保護者も心配したが、メリットが大きいように感じている

*大槌町

大槌地区では、平成28年4月に大津波被害で使えなくなった4小1中を再編・統合し施設一体型小中一貫教育校「大槌学園」を9年制の義務教育学校として開校された。

平成28年9月に開校した「大槌学園」



吉里吉里地区は「吉里吉里小学校」と「吉里吉里中学校」を、施設分離型小中一貫教育校（6：3制）として進めておられるが、児童生徒数が減少するなかで、今後どう小中一貫教育を進めるかが課題となっている。

*釜石市

再編・統合を進め、現在14小学校、5中学校がある。子ども達の少子化、学校の小規模化が進み、小中学校の再編・統合を検討されている。



被災した鵜住居小学校と釜石東中学校は、高台の同一敷地に鵜住居小学校・釜石東中学校を新築されている。